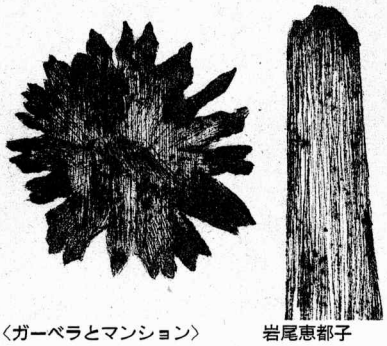
朝日歌壇 俳壇



〈ガーベラとマンション〉　岩尾恵都子

佐佐木幸綱選

出番なき物差し取り出し測りたり年の始めの大雪の嵩　（郡山市）遠藤　雍子

雀鳴き烏鳴きまた雀鳴き病棟の灯りが点くのを待ちをり　（東京都）寺山つむぎ

コンビニの閉店したる四つ辻はもとより暗き夜道となりぬ　（狭山市）奥薗　道昭

レンタルの介護ベッドは早々と引き取られゆき床の広さよ　（東京都）鈴木ひろみ

☆寒風に身を晒しつつ寄付募る「国境なき医師団」の若き人達　（水戸市）檜山佳与子

☆この町にこども食堂開店す小学校は閉校なのに　（常陸太田市）八幡　康

ITの企業が目立つビル群を流れ穏やか渋谷川澄む　（白井市）本山　正明

暖海の魚も北の食卓に今日クロアナゴから揚げが美味　（盛岡市）渡辺　恭

「上出来だ、食べてみてよ」と言う父よホットケーキは誰でも焼ける（東京都）藤森　彩希

アイドルが五十を過ぎて問題を起こす日本のテレビ業界　（船橋市）佐々木美彌子

【評】第一首、昔はよく使った「物差し」。最近は見なくなった。第二首、入院していて、まだ暗いうちに起きてしまった早朝をうたう。第三首、「もとより」は以前よりの意味。第十首、中居正広引退にかかわる作が何首かあった。

高野公彦選

吾が糧を宅配せる人地吹雪にマイナス10度の雪かぶりつつ　（札幌市）木下　澄子

子の家族帰ったあとの布団干しそれは今年の幸せ初め　（須賀川市）山本真喜子

どうと来てどうと去りゆく帰省子の残せし広さ持て余しゐる　（長野県）千葉　俊彦

大歳の珠洲の社に鎮魂の舞を捧げる巫女の浄らか　（敦賀市）竹内　展子

震災を語りたくなく忘れたく家にこもりて二月を待ちぬ　（神戸市）長尾　佳子

闇バイト悪事ですらも人の指示なければできぬ若者哀れ　（東京都）森田　文康

死ぬよりもやさい作りができぬこと嘆きし母の齢に近づく　（安中市）岡本千恵子

ウクライナ兵士四万余の戦死わが住む町が消滅の数　（加東市）藤原　明

☆この町にこども食堂開店す小学校は閉校なのに　（常陸太田市）八幡　康

首相には会わない方がよかったか表情険し被団協代表　（東京都）小川あゆみ

【評】1首目、厳しい寒気に耐えて生活物資を運んでくれる人々への深い感謝の念。2首目と3首目、正月に帰省した子らが去った後の、二通りの反応。4首目、能登の人々の災害からの立ち直りを祈りつつ、鎮魂の舞を捧げる浄らかな巫女。

永田和宏選

癌に臥す妻の細髪洗いおりて我は悲しく勃起せしなり　（狭山市）奥薗　道昭

悔いひとつでも致命傷吾はなぜに亡妻の孤独に切り込まざりし　（仙台市）二瓶　真

缶蹴りの缶が蹴られて一斉に駆走り出す子供ら連れて　（さいたま市）大浦　健

整然と波の寄り来る九十九里波を追ひ越す波なかりけり　（東金市）山本　寒苦

不登校の我が子通らぬ通学路スクールガードに立つ今朝もまた　（京都市）福田　孝男

ほらそこに指先たったの数センチ管に繋がれ届かぬスマホ　（東京都）小川あゆみ

行ってみたらたいしたとこじゃなかったと妣は笑って帰ってきそう　（東京都）渡部　鈴代

「おじさん」がヒーローだった頃もあり鞍馬天狗や月光仮面　（佐倉市）内山　明彦

ありがとうの「あ」だったのか、評読んですとんと腑に落つ「あ」を聞き三月　（岡山市）寺谷　和子

強風で我が家の周りにまた飛び火　灰と煙に三日四晩も　（アメリカ）大竹　博

【評】奥薗さん、少し躊躇したが、思い切って冒頭に。やせ細った妻をいたわるように洗髪をしていたら、思わず予期せぬ性への衝動が。こんな時にと狼狽えもするが、妻への全身的な愛以外のものではない。なんという悲しい男の性か。

馬場あき子選

「排他的経済水域外でした」そこも漁船がイカとる漁場　（岡崎市）兼松　正直

三限目カエルの解剖始まりのメス入れるとき一瞬静か　（奈良市）山添　葵

拉致をする国とは何か拉致されて取り戻せない国とは何か　（生駒市）辻岡　瑛雄

外国人観光客が窓をあけ雪搔きしてるホテルの二階　（近江八幡市）寺下　吉則

鯨の肉はほ乳類なのに魚屋に納得できぬ小学生ら　（日南市）宮田　隆雄

助っ人で行った職場の食洗機でランチ皿二百五十枚洗う　（富山市）松田　わこ

スマホ見つつ歩く男に引かれゆく犬は一度も視線を上げず　（観音寺市）篠原　俊則

「ありがとう」異国の人に道教へ貰ひし言葉美しきかな　（厚木市）北村　純一

饅飩は中国の古語北宋の欧陽脩に湯餅とあり　（東金市）山本　寒苦

☆寒風に身を晒しつつ寄付募る「国境なき医師団」の若き人達　（水戸市）檜山佳与子

【評】第一首の括弧内のことばはミサイル着弾地点が安全圏である時よく耳にする。ほっとするが実にそこは漁民にとって、重要な操業場でもあるのだ。第二首は学校の授業の場面。さすがに緊張の一瞬、命への思いはやはり切実である。

うたをよむ　残り物たる僕たち

花山　周子

死んだ後つけられたから戒名であろうマンモスの名前の「ユカ」は　川島結佳子

『アキレスならば死んでるところ』およそ四万年前の永久凍土から発見されたマンモスに人は名前を付けた。それが「戒名」と言い換えられるとき浮き彫りになる人類の独善性が印象的だ。

ヒトという毛のなき獣の腕を見る猫より採血むきだと思う　久永草太『命の部首』

作者は獣医師。様々な動物の採血をしてきてふと改めて毛のない人間の腕が発見される。

どちらも昨年刊行された若い世代の歌集から引いた。共通するのは動物目線から人類が観測されていることである。

ひと足早い人類滅亡だと思う蔦に覆われる水再生センター　川島結佳子

死が暗く怖い僕らの質量は超新星になるには足りず　久永草太

これらの歌ではSF的な視座そのものが身近に差し迫ったリアリティーがある。人類の滅亡が目前に据えられているといってもいい。

昨晩の残り物たる僕たちを温めなおしてください、朝日　久永草太

コロナの流行や地球温暖化、戦争、災害といった事態が次々に押し寄せる世界を、わたしたちは個人としてどのように感覚することができるか。宇宙規模のストリートビューからわたしの所在を観測するような彼らの作品は、人類的失意が個人に及ぼす「人類の小ささ」という自覚をシリアスに突き付けているように思う。（歌人・装幀家）

風信

川野里子著「短歌って何？と訊いてみた　川野里子対話集」　哲学者・納富信留、小説家・三浦しをん、民俗学者・赤坂憲雄ら多ジャンルの15人との対談を収録。（本阿弥書店・2750円）

◇朝日歌壇　入選取り消し　1月26日付の歌壇に掲載した「君だけの俺でゐるよと良くもまあ言ひしあの時蠟梅の花」は二重投稿でしたので、入選を取り消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（選に3作品まで）。QRコードから